

園芸文化研究所助成研究報告

研究所設立のための主要目的の一つに、国内外の園芸文化に関わる研究活動の推進とその支援事業がある。しかし、園芸文化の範囲は極めて広く、また多岐にわたるため、初年度は研究テーマ設定とプロジェクト結成のための予備研究に対して、情報と資料収集費の範囲で助成事業を開始した。以下の6編は、本事業一年間の成果であるが、その多くは中間報告的なものである。

本助成事業は 2004 年度以降も、新規あるいは継続のための募集を行い、それらの研究テーマを軸とした、本格的な研究プロジェクト体制の確立を図る予定である。

日本における宿根草花壇の 可能性について

西村 悟郎(英米文化学科)

村上 睦朗(園芸短期大学)

今回の研究費で 32 種類の宿根草を購入し、順次花壇に定植して、現在生育・開花を調査しているところである。調査は秋までかかる予定である。

今回の報告では、宿根草の花壇材料としての特性を述べ、今回購入した植物を中心にその例を紹介する。

まず、第一に挙げられる宿根草の特性は、開花期が比較的短く、季節性ははっきりしている点である。ベルゲニアやユーフォルビア・キバリシアスは3

月、クレマチス・モンタナは4月、ゼラニウム・ロザンネン、ヒューケラ、アストランティアは5月、ヘメロカリス‘ゴールドゼブラ’は6月、ルドベキア‘アイリッシュアイ’は7月、リアトリスは8月、ソリダゴ、シュウメイギクは9月、ホトトギスは10月。これらの季節性のはっきりした宿根草を配置することによって、年間を通してどこかに何らかの開花が見られるという、季節の変化に富んだ花壇が実現できる。

次に挙げられる特性は、草丈に低いものから高いものまで様々な種類があり、高さのちがう種類を組み合わせ、変化に富んだ花壇（ボーダー花壇）を作ることができるという点である。イギリスでは宿根草のボーダー花壇が発達していて、各地の名のある庭園は、それぞれ自慢のボーダー花壇を持っている。私は、これまでに何回かウィズレーガーデンのボーダー花壇を見る機会があったが、ボーダーの前に立つと、その見事さにいつも足が震える。ボーダーに用いられる植物の種類としては、前の方にポテンティラ、ジェウム、アルケミラ、ベルゲニア、オステオスペルマム、ヒューケラ、ガザニアなど草丈の低いものが置かれ、中央部にアストランティア、ベロニカ、ヘメロカリス、ゼラニウム、宿根カスミソウ、エキナセアが入り、後ろの方にはヤナギラン、ベロニカストラム、サリクトラム、バーバスクム・オリピックム、エキノプス、ユーフォルビア・シッキメンシスなど大型の植物を置く。前から後方までゆったりと植物を配置するのがこつである。植物を、あまりぎゅうぎゅうに詰め込んではいけない。

次の特性としては、宿根草は植物の姿・形に特徴のある種類が多いので、一年草のように集団として扱うのではなく、各植物の特徴がよく発揮できるように、比較的小さな集団を配置して、それぞれの個性の絡み合いを楽しむことが宿根草ボーダーの醍醐味である。例えば、ネペタ・ゴバニアナは唇弁を持つ淡黄色の細長い花が、茎にぶら下がるように着く、とても個性的な草姿をしている。こういう植物は、集団として扱うのではなく、数株があるだけで、そのボーダーに味と面白みが出てくる。また、キレンゲショウマは日本の原産の植物であるが、ユキノシタ科の植物としては大型の花形をしており、イギリスではこの植物が半日陰の植物として珍重されている。ラテン

名も和名と同じなので、イギリス人も「キレンゲショウマ」と発音している。一番個性的な宿根草をあげるとしたら、ユーフォルビア・チャラシアスであろう。草丈1.5mほどで、ユーフォルビア独特の淡黄色の花が直径30cm、長さ60cmほどもあるドーム状の花序を形成する。私はこの植物に「緑の海坊主」という名前をつけた。

宿根草には、花の色に淡いものが多いという特性もある。サリクトラム、ケマンソウのピンク、アキレギアのクリーム色、セントーレアやデルフィニウムのブルー、ジギタリス・グランディフローラの淡黄色など淡い色合いの植物がそろっている。そういう色合いの植物を選んで配置すると、やわらかい雰囲気の良いボーダーになる。

また、宿根草は葉の色も個性的である。特に、ダスティーミラーと呼ばれる灰白色の葉色を持つ種類は、隣接する他の植物を引き立てる役割をする。アルテミシア、ヘリクリサム、スタキスなどは重要な引き立て役である。

参考文献

Bobhouse, P. *Borders Pavilion*. 1989.

Jelitto, L. and W. Schacht. *Hardy Herbaceous Perennials Vol. I. II*
Batsford. 1990.

Nishimura, G. and T. Mori, Study on flowering period of the plants in a
herbaceous border at the Royal Horticultural Society's Garden at
Wisley. *Bull. Dept. Hort. Keisen College*. 1998.

ブリッケル編. *A—Z園芸植物百科事典* 誠文堂新光社. 2003.